

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2016.2月号
通巻 第503号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012



右から、坂上恵保巳さん、藤本加奈子さん、小山京子さん、藤巻司郎会長、塚本美保さん、蛭田佐智子さん、松戸幸子さん、薄井美弥さん、佐々木香さん

2016年新年造園人の集いは151人の世話をにより1月5日、東京都港区高輪の品川プリンスホテル「プリンスホール」で開催され、造園の学界、官界、産業界をはじめ、広く関連業務に携わる方々約600人が参加して盛大に行われた。

集いは、(一社)日本公園緑地協会の霧山明夫常務理事の進行で、冒頭、世話を代表し、伊藤英昌(一社)日本公園緑地協会会长が、「新年造園人の集いは、新年を祝うこともその目的だが、同じ志を持った人たちの集まりで、参加者の方々の交流・親睦を深めよう」というのが2つの目的。そうすることでもっと発展させよう」というのが3つの目的であり、一番大事だ。さらに、発信が重要で、対象をきちんと定めて発信することが大切だ。今年は会場に印半纏を着た人が多くいるが、半纏の「半」に糸偏を付けると「絆」になり、絆を纏うという半纏は、本会の趣旨にも相応しいもので、伝統的な造園の正装である。本日はぜひ、皆さんの絆を深めていただき、来年も笑顔でお集まりいただけるよう、有意義な時間を過ごしていただきたい」と挨拶した。

次いで、学界を代表して、宮城俊作(公社)日本造園学会会長が、「学会は10年後に百周年を迎えるが、造園の伝統的な技術のコアの部分をしっかり継承し、発展させていくとともに、その外側の建築、土木、都市計画やまちづくりにも積極的にかかわり、コミュニケーションを図っていきたい。今年10月に日中韓造園家専門家会議の開催を予定しており、これに合わせてランドスケープ・ウィークを実施しようと、若手・中堅の人たちを中心に企画し、広くランドスケープを知っていただく機会にしたい」と挨拶。

国土交通省からは、柳野良明国土交通省都市局公園緑地・景観課長が、「来年度の公共事業は、横ばいから微増だが、『減らない』ところに意味があり、防災・減災、メンテナンス、コンパクトシティなどの予算も入っている。国の予算は横ばいだが、地方から寄せられる要望は多く、公共事業全体で考えるとプラスになるのではないか。民間部門は、東京・大手町の森や大阪の梅北の2期地区で行われているように、緑をつくることに関心が高まり、お正月に明治神宮の森が特番

で放映されるなど、関心が高まってきた。我々は自信を持つと同時にその期待に応えていかなければならない。産官学、それぞれの持ち場で緑の大切さを胸を張って言つていただきたい」と述べた。

環境省からは、自然環境局担当の亀澤玲治大臣官房審議官が、「昨年は、地球温暖化防止に関する新しい枠組みとなるパリ協定が、すべての国々が参加して合意する歴史的なものとなり、気象災害が激甚化し、先進国、発展途上国を問わず暮らし方そのものを見直すところまで來たといえる。今年は、三重県志摩市でサミットが開かれ、それに先立ち環境大臣会合も富山市で開かれる。国立公園を紹介する写真集をサミットに向けて用意し、オリンピックに向けてさらに増加が見込まれるインバウンド対策としての国立公園ユニバーサルデザインプロジェクトを含め、自然環境の保全、生物多様性の保全を行っていく」と述べた。

藤巻会長が乾杯を発声

乾杯は、産業界を代表して、藤巻司郎日造協会会長が「女性活躍推進法が制定され、今年はより女性が活躍できる造園業界を目指していきたいと思っています。日造協には昨年、女性就業促進検討特別部会が発足したので紹介したい」と述べ、活動状況について、蛭田佐智子さんが代表し、「部会のメンバーは14名で関東圏を中心に、沖縄、九州、四国、中国、近畿、中部と全国各地におり、通常は電子会議で議論を続け、「担い手の育成・確保のための行動計画」を3月に策定し、造園業で働く女性の一助になればと思っています。今日は、その中から3つの紹介をさせていただきます。1つは、インターネットによる意見交換で、これにより全国どこからでも会議に参加できます。これを発展させれば、会社に女性がほかにいなくても、仕事上の悩みや出産、子育てなど、同じ立場の方の相談相手や愚痴話ができるのではないかと思つ

本号の主な内容

- 2面 【学会の目・眼・芽】健全な都市農地の保全・活用に、今こそ造園技術を
【公社】日本造園学会理事・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授 加我宏之
2、3面 東日本大震災から5年 現在の復興状況について
【東日本大震災復興支援本部】夢と希望あふれる仕事を推進／【岩手県】新たな市街地の賑わい創出／【宮城県】造園工事も発注された状況／【福島県】ようやく防災緑地等の工事始まる
4面 【ふるさと自慢】香川県 吉田令子(緑造園興業株)
「獅子たちの里」香川県三木町「三木まんで願」秋大祭と名物
【緑滴】カフェではと一息 横口 梢(株)野上緑化

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事

みずえ緑地(株) 代表取締役 正木 大



地域の緑を育てる、繋ぐ

事業委員長を仰せつかって2年が経過しようとしています。地方のものでも何等かお役に立てばと微力ながら活動しております。

現在は造園会社を営む傍ら、小学校での緑に関する総合学習実施や公民館等での花・緑に関する講習、森林・桜等の保全活動、景観育成等の地域活動も併行しております。かつては、造園・緑化を推進する建設工事業としてのウエイトが高かった時代から、保全・育成、改良といったソフトを絡めた地域サービス業としての色が年々強くなってきていると感じます。

このたびの記事では、桜の保全・育成活動で感じていることを題材とします。桜は春の訪れを告げる日本を代表する花の一つとして、多くの人々に愛されています。この時期からの旅行社の広告も花見ツアーが紙面を席巻しています。

花見の記録として、古くは西暦800年代の「日本後記」にも記されているのが桜であろうとされています。その後、吉野、東山など、現在も続いている名所と呼ばれる場所が生まれると共に多くの品種が輩出されるようになります。明治維新以降、一旦は庭園や屋敷の取壊しと共に多くの桜が消滅しました。その頃、植木職人である高木孫右衛門は自宅にて桜の品種保存に努め、荒川堤の桜植樹にも携り、品種消滅の危機を救ったとされています。以降、植物園等での品種保存が行われ、研究が続けられています。

また、それと並行して江戸後期頃「染井吉野」の生産がされ始め、爆発的な人気を博しました。明治時代になって以降、公共地も含め、多くの場所で染井吉野が植栽されてきました。現在、日本人の桜のイメージは染井吉野を連想される方が一部地域を除き多いものと思われます。クローンであるため、一斉に咲き見事な景を演出しますが、天狗巣病の蔓延がしやすいなどの特徴があります。植栽されて久しいものについては、傷みが激しい個体も多く、名所の座から陥落しそうな地域もあります。

それらは、日本人の真面目さ故か、植樹することは良い事として、記念植樹も

含め無作為に高密度に植栽されてきたことによる被圧、植栽基盤の整備不足などが代表的な原因として挙げられます。育成管理をされているものがほとんど無いことも劣化を助長させています。

花見の季節はちやほやとされますが、花が終わると、「毛虫が多い、落ち葉が…」などと途端に厄介者にされてしまう始末です。「桜切る…」が桜に対してさわらないことが良いことといった風潮を検証、打破できていなかった私どもにも反省するべき点も多々あります。

花見での感動や社会的な利益は地域や人だけでなく、桜にも様々な形で返してあげることが必要です。

青森県弘前を発端に桜の再生に関する取り組みが進み、その知見が少しづつ広がってきています。

私も先代より引き継ぎ、宮島の他、広島県内外の数か所で地域を交えての桜の育成・保全活動及び指導を行っています。ここでも桜の名所と称する地のほとんどが染井吉野主体です。適切な管理を行えば、少しづつではありますが、回復の兆しを見せてくれます。但し、継続することが重要です。そのためには、育成管理の必要性が理解され、行政のみならず地域の協力者が増えていくことが必要です。加えて、場に合った品種の提供、適正な配植密度等、将来を見越した計画づくりが欠かせません。このことは、桜に限らず、公園・街路樹等でも同様の考え方が必要です。

地域活性、また観光立国を推進する日本にとっても桜の存在は重要です。約100年余り染井吉野を中心としてきた日本の桜の景が、今後どのように保全・育成していくのか、はたまた変化を持たせていくのか等の議論と行動が求められています。それを押し付けでなく何世代にも亘って繋いでもらえるようにしていかなければなりません。今年も造園家として、桜の一ファンとして、地道に一步を進めていければと思います。

間もなく桜の季節がやって来ます。地域の花を見に行ってみましょう。春の恵みに感謝しつつ。

一部ですが、こうした取り組みは、経営の主体である男性の皆様のご理解とご協力が欠かせません。ぜひ、その点をご理解いただき、各社で、女性にとって働きやすい職場へのご検討とご努力をお願いします」と述べ、メンバーを紹介。藤巻会長が乾杯を発声、懇談の場となり、途中、高尾典秀(一社)日本公園施設業協会会長、長谷川信(一社)日本運動施設建設業協会代表理事、佐藤留美(一社)公園管理運営士会関東支部長が、それぞれの活動について紹介。最後に、枝吉茂種(一社)ランドスケープコンサルタント協会会長が三本締めを行い散会した。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

東日本大震災から5年 現在の復興状況について

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震から間もなく5年。この地震による東日本大震災は、いまなお過去のものとはいはず、この間も国内で噴火、土砂災害などの大きな災害が発生し、昨年の鬼怒川決壊でも大きな被害をもたらしました。こうした中、公園緑地をはじめとする国や地方自治体における防災対策をはじめ、日造協の会員も各地で防災協定などによる災害への対応を図っています。

本号では、日造協が設置している東日本大震災復興支援本部の状況と岩手県支部、宮城県支部、福島県支部からの現在の復興状況について、ご紹介いたします。

東日本大震災
復興支援本部

夢と希望あふれる仕事を推進

日造協は2011年3月15日、国土交通省の災害応急対策のため、建設機械、資機材の調達や労働力の確保、地方公共団体等と緊密な連携を図りながら、可能な限り被災地域の災害応急対策に取り組む要請など、「東北地方太平洋沖地震に係る災害応急対策への協力について」会員に周知を図るとともに、18日に「地震災害対策本部」を日造協本部に設置、本部長、副本部長、事務局等を決定。会員の被災情報の収集、被災会員、被災地域に対する義援金募集などを実施しました。

その後、平成26年10月31日には、復興庁より「国営追悼・祈念施設（仮）」の設置が閣議決定したことが発表され、その後、被災3県（岩手・宮城・福島）に各一カ所を設ける構想が公表されました。こうしたことから、日造協では平成27年に東日本大震災対策本部を東日本大震災復興支援本部に改組しました。

そして、復興支援本部内には、東北現地支援本部を設置し、本部長に東北総支部副総支部長の米内氏（岩手支部長）が選任され、各県の本部長にそれぞれの県の支部長が就任しました。

さらに、東北総支部事務局長に前国土交通省総務部予算調整官の藤川正氏を迎え、今後計画される各県の復興祈念公園整備に万全の体制を整えました。

最近では、平成28年2月1日に東北現地支援本部意見交換会を開催し、東北国営公園初代事務所長の脇坂隆一氏より「国営追悼・祈念施設（仮）整備事業について」の講演をいただき、各県の復興公園整備計画について詳細に解説をしていただきました。

今後、この現地支援本部を中心に各県の情報を共有し、復興支援本部の指導をいただきながら各県会員が夢と希望あふれる仕事を推進してまいります。

学会の目・眼・芽 第73回

健全な都市農地の保全・活用に、今こそ造園技術を

（公社）日本造園学会理事・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授 加我宏之

平成27年4月に都市農業振興基本法が成立し、本法は健全な都市農業が営まれることで都市農地が保有する多面的機能が十分に発揮され、良好な都市環境の形成に資することを目的に施行されました。

都市農地の多面的機能を改めて確認すると、都市農地固有の機能として新鮮な農産物の供給、都市住民の農業への理解の醸成があげられますが、都市農地が緑地として発揮される機能として、良好な景観の形成、災害時の防災空間、国土・環境の保全、これらに加えて、都市住民や学童の農業体験・学習の場及び農家と都市住民の交流の場を提供する役割があげられ、都市農地の新たな利用効果を顕在化することが着目されています。

国土交通省は、「コンパクトシティの推進と地域の活性化」に向けて「緑・農の共生したまちづくり」を推進するための実証調査を実施しています。

昨年度、本調査に参画し、中小工場の街として有名な大阪府八尾市を事例に市街化区域内農地の保全活用に向けたアンケート調査を実施しました。

その結果、都市農地に対して、一般市民の若い世代は収穫体験の場、幼稚園、小・中学校等の教育機関は児童・生徒の食育や情操教育の場、社会福祉法人は園芸療法や障がい者雇用の場、NPO法人や市民団体は健康や生きがいの場として、多くの期待が寄せられています。

いづくりの場、企業等はCSR活動や福利厚生、社員の安心な農作物の確保や新事業展開の場として期待し、都市側の各種団体の都市農地に対する新たなニーズを発掘することができました。

2015年4月に発刊されました学会誌「ランドスケープ研究 Vol.79 No.1『特集・都市のつくる農のランドスケープ』」は、このような都市農地を舞台に展開されつつある新たな取り組み、都市空間に新たに生み出された農のランドスケープについて詳しく報告しています。

◆
都市住民は農道を日々のウォーキングコースとして緑道のように親しみ、体験農園や市民農園は都市住民と農家の交流広場として活用されようとしています。一人当たりの公園整備面積が諸外国と比較して、まだまだ少ない我が国の市街地において、都市農地は新たな公園緑地として期待されています。

都市農地は、農業政策と都市政策の間にあって、誰からも手を差し伸べられることなく放置されてきました。都市での文化的でゆとりある暮らしを望む都市住民とともに農家は、唯一無二の都市の緑の専門家に培ってきた造園技術が健全な都市農地の保全・活用に向けて注がれることを大いに期待しています。

【岩手県】 新たな市街地の賑わい創出へ

岩手県では、三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路等復興道路・トンネル工事を含め各地で大規模工事を展開し、防潮堤など海岸保全施設や災害公営住宅の整備などが進められています。

また被災自治体も面的整備や復興拠点の形成など復興の歩みを進め、今後は新たな市街地にぎわい創出を大きなテーマに掲げ、交流活動や商業、防災などの拠点形成を図っています。人々の生活も日々変化し、住民が主体となった街づくりへ、行政・民間が連携し新たなステップへ取り組みがはじめられています。

一方、がれき置き場となっていた公園用地もがれきが無くなり、復興公園として整備が計画され本格施工に向け準備が進められています。陸前高田市の高田松原海水浴場、山田町の船越公園など昔から観光レクレーションの場として多くの人々が訪れた施設の再生に向けた取り組みが始まっています。

特に奇跡の一本松でも知られる高田松原は、周辺一帯を高田松原津波復興祈念



震災メモリアルパーク中の浜津波堆積土を使用した津波避上高と同じ高さの築山"メモリアルの丘"は、津波の高さが体感できる。被災した野営場の炊事棟・トイレは震災遺構として保存・展示されている。



防潮堤の海側に防潮林を計画、350年の歴史を持つ"高田松原"を再生する。防潮堤の市街地側は高田松原津波復興祈念公園が計画され、約130haの面積を整備する。

公園として追悼と鎮魂、震災の教訓を伝承する場として国・岩手県・陸前高田市が整備します。復興公園は、平成32年度東京オリンピックが開催される年に向けオープンできるように岩手県支部としても全力を注いでいきたいと考えています。

今年岩手県では、"2016希望郷いわて国体・いわて大会"が開催されます。"広げよう感動。伝えよう感謝"をスローガンに、東日本大震災復興の架け橋と位置付けられています。

国体の開催に向け、各自治体市町村の「花いっぱい運動」に支部会員が専門業者として貢献し、沿岸被災地をはじめとする岩手県のすべての県民や産業に希望の光が灯ることを期待するとともにこれまでに頂いた、たくさんの励ましや支援に対して「おもてなしと感謝の気持ち」を伝える大会にしていきたいと思っています。

早いもので東日本大震災から5年目を迎えることとなりました。日造協岩手県支部と致しましては全国の会員様から多くのご援助と励ましのお声を掛けて頂き、厚く御礼と感謝を申し上げます。



山田町の海岸防災林事業
防潮林（アカマツ・クロマツの苗木植栽）



高田松原は全長2kmに渡り、約7万本のアカマツ、クロマツ林が広がる景勝地であった。地際より1~2mの位置ではどの樹木の幹が破断しており、壊滅的な被害を受けた。

金沢城公園や兼六園を視察

技術委員会を金沢市で開催

熊谷 雅人（雪印種苗株）



技術委員会は平成27年12月11日、金沢市内で技術委員会を開催し、12日に金沢城公園と兼六園での視察研修を行った。視察研修の様子を報告します。

『金沢城公園』

金沢城は天正8年（1580年）に築城を始め、3年後の天正11年に前田利家が入城し、以来加賀藩前田家14代の居城となりました。

明治以後、終戦までは陸軍の拠点となり、平成7年まで金沢大学のキャンパスとして利用されてきました。

今回は、石川県金沢城兼六園管理事務所の猿田秀一所長にご案内を頂きましたが、印象深かったことを紹介します。

【石垣の保全】

園内には往時の石垣が多く残されています。長い年月を経た石垣だけに、はらみ等、石の動きが発生します。此処では、

ふる
香川県
と慢

「獅子たちの里」香川県三木町
「三木まんで願。」秋大祭と名物



力フエでほつと一息

株
野 樹
上 緑
化 棚



毎年秋になると、町のいたるところで獅子舞の太鼓や鐘の音が響く「獅子たちの里」香川県三木町。

それを象徴する町の一大イベント「獅子たちの里 三木まんで願。」秋大祭は、毎年10月第4土曜日に開催されています。(まんでがん: 讀岐の方言で「全部」という意味。祭りのタイトルには、獅子舞を中心とする町の魅力を「全部」集め、町を元気にしたい、全国に発信したいという「願い」が込められています。)

◆
祭りの目玉は、50余の小獅子と3頭の大獅子たちの乱舞。その壮大な舞は圧巻で、集まった観客を魅了します。

三木町が誇る3頭の大獅子のうち、水上八幡神社の大獅子は、重さ250

kg、全長28m、獅子頭幅2.6m、高さ1.7mもあり、持ち上げるには大人と子ども合わせて50人以上の力が必要です。

油单(獅子の胴体の部分)は、町出身の京友禅作家・林田清龍氏によるもので、その貫録と油单の美しさは一見の価値あります。また、その雄姿は、町のシンボルとしてマンホールやバスの車体など町のあちこちに描かれており、日頃から町民に親しまれています。

◆
祭りは、獅子舞のほか、ダンスや音楽などのイベント、食や遊び、町内の面白い物、楽しい情報など、その名の通り誰もが楽しめる三木町の魅力が「まんでがん」詰まっています。

締めくくりは打ち上げ花火。伝統文化の伝承、町の発展や子どもたちの健やかな成長など、それぞれの希望を乗せた大輪の花が秋の夜空を鮮やかに彩ります。



就職してから一人暮らしを始めました。富山は今まで帰省の時に通る程度で、ほとんど来たことがない地域だったので、お気に入りのお店を見つけるべくカフェ巡りをしています。

カフェは、家具や食器、そしてお料理、全てを合わせた雰囲気が、そのお店のカラーが出ていて大好きです。しっかりご飯が食べたいとき、ゆっくりお茶をしたいときなど、そのときの気分でお店を選んでいます。

ふとエスニック料理が食べたいと思ったとき、晩ご飯も食べられるアジアンカフェに行きました。ハーブの香りがきいたおいしいご飯をお腹いっぱい食べ、元気が出ました。

ゆっくりしたいときは近所のアメリカンカフェに行きます。おいしいお茶と、手作りの工夫されたデザートでほっこりして、チラシを味わいます。

野菜が食べたいな、と思ったときには人気のお野菜カフェに行きます。自分で一度にこんなに品数を作ることはできません。ひとつひと



アジアンカフェ



アメリカンカフェ



野菜カフェ

丁寧に作られた料理を味わって、お腹も心も満たされました。

カフェは、インテリアや盛り付けもひとつひとつがおしゃれでかわいく、そのひと手間がなかなか自分でできません。気分転換や自分へのごほうびとして、カフェに行く時間は至福のひと時です。

そして、おいしいものを見つけ、お気に入りのお店に出会うと幸せを感じます。この時間があるからこそ、また仕事をがんばろうと思うのです。



秋大祭の様子と3頭の大獅子 (④四條⑤水上神社⑥天野神社)

◆
来場者の方へ数量限定(2015年は300食)で無料配布しており、配布時には長蛇の列で即完売しています。

※希少糖: 三木町は希少糖発祥の町で有名。希少糖の木「ズイナ」を栽培している。※玉ねぎ、じゃがいも: 姉妹提携町の北海道七飯町より取り寄せ、それ以外は概ね町内産。

イベントで販売される特産品では、全国のいちご総生産量のわずか1%のみ栽培されているいちごの女王「女峰」。香川県は全国シェア90%、三木町は生産日本一を誇ります。甘味と酸味が強くそのバランスが絶妙な品種で、「高設栽培」で作られた女峰を原材料に、姉妹提携町北海道七飯町のワイン工場で醸造している「いちごワイン」は三木町の特産品として有名。アルコール8%未満。いちごの甘い香りとさらっとした飲み口が人気です。

吉田令子(緑造園興業株)



「いちごワイン」と「まんで願。カレー」

事務局の動き

[1月]

- 5(木)・国土交通省、環境省ほか新年挨拶回り
- 8(金)・新年造園人の集い
- 15(金)・沖縄総支部・支部交流会、合同新年交歓会
- 18(月)・担い手3法と人材の育成確保、社会保険未加入対策説明会(群馬県支部)
- 21(木)・登録造園基幹技能者講習(大阪) ~1/22
- 24(日)・第42回全国造園デザインコンクール審査会
- 26(火)・関東・甲信総支部と関東地整道路部との意見交換会
- 28(木)・登録造園基幹技能者講習(福島) ~1/29
- 29(金)・沖縄国際洋蘭博覧会審査会

[2月]

- 1(月)・総務委員会(財政・運営部会)
 - ・アクションプログラム推進等特別委員会
- 4(木)・登録造園基幹技能者講習(東京) ~2/5
 - ・運営会議
- 5(金)・九州総支部・支部交流会
 - ・総務委員会(広報活動部会)
- 9(火)・事業委員会(造園フェスティバル推進部会)
- 10(水)・登録造園基幹技能者講習委員会(試験委員会)
- 13(土)・第42回全国造園デザインコンクール表彰式
- 15(月)・事業委員会(要望・提言活動部会)

- ・事業委員会(人材育成部会)
- ・中国総支部・支部交流会
- ・担い手3法と人材の育成確保、社会保険未加入対策説明会(中国総支部)
- 16(火)・資格制度委員会(新資格制度検討チーム)
- ・第2回 地域リーダーズ勉強会 ~2/17
- 19(金)・造園施工管理技術検定委員会
 - ・中部総支部・支部交流会
 - ・担い手3法と人材の育成確保、社会保険未加入対策説明会(中部総支部)
- 23(火)・東北総支部・支部交流会
- ・資格制度委員会
- 24(水)・登録造園基幹技能者講習委員会
- 25(木)・事業委員会(事業企画部会)
- ・事業委員会

委員会等の活動

- 事業委員会(人材育成部会)
 - ・第42回全国造園デザインコンクール審査会を開催した。予備審査会(1/23)、本審査会(1/24)
- アクションプログラム推進等特別委員会
 - ・女性就業促進検討特別部会と会員拡大プロジェクトについて27年度の事業報告をし、28年度の事業計画について検討。「担い手の育成・確保のための行動計画」について検討した。(2/1)

年度末労働災害防止強調月間

建設業労働災害防止協会の主唱で、3月1日から3月31日まで、「建設業年度末労働災害防止強調月間」が実施されます。

年度末は、公共工事等多くの工事が竣工に向け、繁忙期となり、また、工事関係者、職種の出入りも多く、注意力が低下しやすい時期であるため、同協会は、この時期の建設現場の安全衛生管理を徹底することを目的に同月間を展開。安全パトロールや墜落・転落災害防止対策の徹底など、企業の実情に応じ積極的な労働災害防止活動を求めています。



編集後記 正月気分はあっという間に過ぎて、あわただしい年度末の中での編集会議でした。今年もさらに充実した紙面を皆様に届けられるように、しっかりと腰を据えて取り組んでいきます。

平成28年4月から
建設共制度が変わります
・被扶養者が12ヶ月からもれなく
・退職金が引き上げられます

笑顔いっぱい
私たちの建退共

建設業のための
退職金制度です。

建設業界の皆様へ

●加入できる事業主
建設業を営む事業主

●対象となる労働者
建設業の現場で働く方

●掛金は
一日 310円
(加入労働者ひとり)

建設業界の皆様へ

建設の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

●17万建設事業所が加入、311万人の建設現場の就業者が退職金支給対象となっています。

●これまでに累計で226万件、1兆6,148億円の退職金をお支払いしています。(平成27年12月末現在)

建設工事の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与!

◎法律に基づき運営される国が作った制度
◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価
◎国からの財政上の支援
(国の助成により掛金の一部が免除)

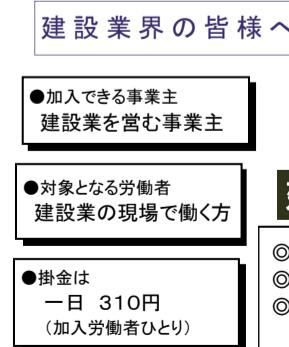
特長

◎掛金は全額非課税
(損金または必要経費に算入できます)
◎複数の企業間を就業しても通算して退職金を支給
◎加入の手続きは簡単
(各都道府県の建退共支部で加入)

こんなに有利!

掛金納付年数 40年 35年 30年 25年 20年 15年 10年
掛金額 312万円 273万円 234万円 195万円 156万円 117万円 78万円
退職金額 563万円 461万円 372万円 293万円 221万円 155万円 94万円

※退職金額は、1年ににつき、310円(1日)×21日(1ヶ月)×12月(1年)の掛金を納めたときの金額です。
※1万円未満は、四捨五入しています。



独立行政法人 勤労者退職金共済機構
建設業退職金共済事業本部

〒170-8055 東京都豊島区東池袋1丁目24番1号(ニッセイ池袋ビル)
TEL 03-6731-2866(ダイヤルイン) FAX 03-6731-2895

建設共のホームページを
ぜひ、ご覧ください

建退共

検索